

2019年度 事業報告／決算報告

【海外事業】



キリマンジャロ山麓の村々が集まり結成した地域連合“HAKIMAMA”の設立総会

概要

2019年度の活動成果は、一にも二にもキリマンジャロ山麓モシ県の森林に沿った村々による地域連合“HAKIMAMA”（Harakati ya Mlima Kilimanjaro kwa Mazingira na Maisha、「生活と環境のための社会運動—キリマンジャロ」）の設立にこぎ着けたことにあります。前身組織 KIHACONE（Kilimanjaro Half mile forest strip Conservation Network）が解散に追い込まれてから2年半をかけて、ようやくたどり着きました。

HAKIMAMAの組織目的はその組織名称が示しているように、(1)キリマンジャロ山麓に暮らす地域住民が「平和に」、「安心して」暮らせる（社会）環境を築くこと、(2)地域住民が主体となって取り組む持続的な森林保全・管理を実現することです。

キリマンジャロ山では2005年以来、15年間にわたってこの2つが損なわれた状態が続いています。地域住民が生活維持に欠かすことのできない資源を得ていた生活林“HMFS”（Half Mile Forest Strip、日本の里山にあたる）に国立公園が拡大され、さらに武器、暴力による住民排除が行われているためです。

HMFSへの国立公園拡大は、タンザニア政府のみならず、UNESCOをはじめとする様々な国際機関によって推し進められたものであり、これに声を上げていくためには、山麓の村々が力を合わせていくための地域横断的な連合組織が必要とされていました。

HAKIMAMAが本格始動するのは2020年度となりますが、HAKIMAMAの設立に至ったことは、今後キリマンジャロ山で「人」と「自然」の双方をそこに暮らす人々自身の手で守っていくための大きな一歩となるでしょう。

このほか2019年度には、建設していたテマ診療所も開業にこぎ着けるなど、多くの前進がありました。

2019 年度に掲げた課題と結果

1. 世界遺産キリマンジャロ山における国立公園の拡大にかかわる問題の解決および旧バッファゾーンにおける地域主体による新たな森林保全・管理の実現に向けた取り組み（※(2)～(5)は、新組織の政府登録を前提とする）。

(1) 地域連携協議会の政府登録の実現

●課題：

キリマンジャロ山における地域主体による森林保全・管理を目的とした地域連携協議会の政府登録は、県政府の承認取りつけを完了し、中央政府（法務省）との折衝、登録申請が最後に残されています。法律および手続き面での齟齬をなくし、登録に向けた作業の万全を期すため、中央政府との折衝、手続きは契約法律家を中心に進めます。

●結果：

政府登録にあたって法律家と契約し、HAKIMAMA の財団法人としての設立認可および政府登録を完了することができました。

(2) 国会議員との協力体制の確立

●課題：

2018 年度に一旦作業を停止した国会議員とのコンタクトを再開します。キリマンジャロ山における国立公園拡大の問題解決のためには、幅広いセクター、関係者のコミットを得ていく必要があります。問題解決の一つの方法は、国立公園境界を定める国立公園法（付則官庁公示（Government Notices））を改訂することであり、国会議員との連携、協力体制の構築はその要と位置づけられます。

●結果：

キリマンジャロ州選出（特別枠）のエスタ・ムマシ国会議員と、ドドマの国会内で会合を持ちました。また議員の仲介により、コンスティン・カニヤス天然資源観光省副大臣との協議が実現しました（議員本人も参加）。

当初議員は国立公園拡大の問題を深刻に受け止め積極的に動いてくれましたが、ロンボ県（キリマンジャロ州）訪問時に、県知事から「森の問題は存在しない」と説明され、以後、消極姿勢に転換。その後のコンタクトをあきらめざるを得なくなりました。



天然資源観光省で副大臣との会議前にエスタ・ムマシ議員（右から2番目）と

(3) 国会環境委員会、森林庁へのアプローチ再開

●課題：

両者に対するアプローチも 2018 年度は途中でストップすることとなったため、地域連携協議会の政府登録を待ってコンタクトを再開します。国会環境委員会は、国会でキリマンジャロ山における国立公園拡大の問題を審議の俎上に載せるため、森林庁はバッファゾーンに対する国立公園拡大の法的正当性有無に対する認識一致を図るためです。両者とも 2019 年度中に結果、結論が出ることはなく、地道に協議を重ねていく必要があります。

●結果：

国会環境委員会については、エスタ・ムマシ議員を介して進めようとしたが、議員の姿勢が変わったことから、それ以上進めることを断念しました。

一方、森林庁とはドス・サントス・シラヨ長官と2回会合を持ちました。長官はHMFSの返還については支持の考えを示してくれ、大統領に直接問題を提起するよう助言をもらいました。ただしこれについては大統領への直訴の前に、ワンクッション置いて国会議員とのコンタクトを優先させたため、ペンディングとなっています。

森林庁長官の考えが明らかとなり、今後も取り組みに対する助言を得られようになったのは収穫でした。

(4) 他県との協力体制構築

●課題：

モシ県以外にキリマンジャロ山の属しているロンボ、シーハ、ハイ県の県議会議員と、地域連携協議会を中心とした森林保全・管理体制について協力体制が敷けるかの協議を行う。ただし県境をまたぐ取り組みは慎重を期す必要があり、2019年度の諸状況をみながら判断することとします。

●結果：

ロンボ、シーハ、ハイ各県の県議会議員と、それぞれの県において会合を持ちました。どの県議会議員もHAKIMAMAの設立および組織目的に賛同し、すべての県が連携してHMFS/国立公園の問題の解決にあたっていくべきとの考えを示してくれました。ただし県境をまたぐ活動になることから2019年度は慎重を期し、モシ県下の村々による足場固め（設立総会の実施）を優先し、他県との連携は2020年度から着手することとしました。

(5) 人権 NGO との連携

●課題：

政府登録が完了するまで接触を止めていた人権 NGO・Legal and Human Rights Centre (LHRC) に国立公園拡大問題への対方針、地域連携協議会の活動の方向性について助言を求め、連携を図っていきます。

●結果：

LHRC との協議を2回実施。HMFS/国立公園の問題については、拡大にあたっての実施手続き上からも政府側に問題があり、裁判で争えばまず勝てるとの見解が示されました。しかし裁判にかかる費用、さらには裁判そのものが公正に行われるかについては大いに疑念があり、裁判という道は選択しないことにしました。このほか LHRC には、キリマンジャロ国立公園公社 (KINAPA) が村人の家、畑を破壊して行った道路の拡張工事に対する調査を依頼しましたが、LHRC 側担当者の人事異動により実施できずに終わりました。



LHRC との会議の様

(6) その他（地域連携協議会の政府登録が実現しなかった場合）

●課題：

地域連携協議会の政府登録が実現しなかった場合、国立公園内での地域住民による植林活動への恒常的許可を実現すべく、中央・地方政府および KINAPA と交渉を開始します。森林利用が許されない中で植林だけを続けることは、地域住民には負担であり抵抗のあることですが、次に繋げるための突破口を開いていくにはこの方法しかないと考えています。

●結果：

HAKIMAMA の政府登録が成ったため、実施しませんでした。

2. 植 林

(1) 植林

●課 題：

2019 年度も TEACA の主導により、山麓にある大型貯水池の堰堤強化を目的とした植林および村落エリアでの植林に取り組みます（植林本数 1 万 5 千本）。キリマンジャロ山における降雨の不安定化が懸念材料で、十分な降雨が得られなかった場合には地域住民への苗木配布に切り替えます。

●結 果：

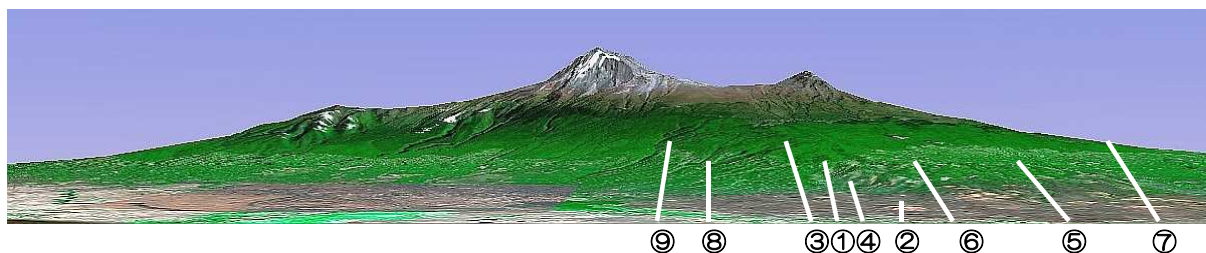
ほぼ計画通り、約 1 万 4 千本の植林に取り組みました。植林地はおもに一昨年の大豪雨被害を受けて、村内の貯水池（東ウンジョー郡、クワマレ村）、川沿い（ムウィカ郡ロレ村、北ウル郡ンジャリ村）で取り組みました。

また 2019 年度は新たに山の周辺に広がる半乾燥地での植林も開始しました（南キルア・ウンジョー郡、マブンゴ村）。これはマブンゴ村から要請を受けて実施したのですが、同村からは乾燥地の環境改善のために継続して取り組んでいきたいとの希望が出されており、その方向で進めることにしています。

表1【植林実績】

苗 畑	植林	販売	配布	主力植林樹種	植林場所
TEACA	2,548	222	5,247	グレブリア、ピナス	①大型貯水池、②半乾燥地
Mowo 環境G	700	0	600	アクロカルパス、クロトン	③モヲ村内
マヌ小学校	2,600	50	1,200	グレブリア、ピナス	④裸地化尾根
コキリ工村人G	1,100	60	700	アルビシア、グレブリア	⑤教会敷地、村内道路沿い
ルワ小学校	1,300	0	500	カップレサス、ドピアリス	⑥小学校敷地
ロレ環境G	2,190	0	336	トリチリア、マカランガ	⑦ロレ村内川沿い
ムシリ中学校	1,550	0	0	グレブリア、マルカミア	⑧ンジャリ村内川沿い
シンガ村人G	2,000	0	340	アルビシア、グレブリア	⑨シンガ村内
合 計	13,988	332	8,923		

【図1】 キリマンジャロ山植林実施地



(2) 苗畑体制

●課 題：

地域連携協議会の政府登録が実現した場合、TEACA と協議会の両者を交え今後の植林実行体制、協業体制について検討を開始します。またキリマンジャロ山での地域主導植林の定着、持続性を考えた場合、苗木の生産、供給体制も現行の TEACA による大規模苗畑体制より小規模分散型の方が適応性が高く、徐々にその方向への転換を図っていきます。多くの実行ノウハウを TEACA から協議会に引き継ぐ必要があり、体制転換は数年をかけて進めていくこととします。

●結 果：

これらについては HAKIMAMA の設立総会において、各村での環境委員会の立ち上げおよび地区担当の仕組みを作ってからとすることが決められたため、実施を見送りました。

2. 養蜂プロジェクト

●課題：

キリマンジャロ東山麓ロレ村でのハチミツの初収穫を目指します。また養蜂箱の増設はせず、現行の7箱での養蜂技術の向上に引き続き取り組みます。そのための養蜂用具の支給、研修を実施します。また今後同村での養蜂プロジェクトを拡大展開していく計画ですが、そのためには養蜂グループの組織強化が必須であり、その方向性を探ります（性急なメンバー増大等は良い結果を生まないため、2019年度は方向性を探るにとどめます。あるいはメンバーの増員を図るにしても少数にとどめます）。

●結果：

ロレ村に養蜂グループ“KIUNUMA”（Kikundi cha Ufugaji wa Nyuki na Utunzaji wa Mazingira、メンバー数10名）を立ち上げ、リーダーのンデリンギオ氏をタンガルショトの養蜂グループ“Mwanboa”での養蜂研修（3日間）に派遣しました。また Mwamboa から講師を招聘し、グループメンバーへの研修（3日間）を実施しました。養蜂器具は日本から燻煙器、蜜漉器、ハイブツールなど、内検に必要な道具一式を供給しました。

初となる採蜜も行い、養蜂箱2箱から計8Lのハチミツを収穫することができました。グループのメンバーたちは毎週1回、自主的に集まって教材の読み合わせをするなど、熱心に取り組んでいますが、フィールドでの実地研修が必要とされており、技術習得にはまだ相当な時間がかかる見込みです。



ロレ村に立ち上げた養蜂グループ KIUNUMA のメンバー。事務所代わりに使っているキオスクの壁にグループの名前が書かれています。

3. 改良カマド普及

●課題：

ロレ村を重点普及対象村として、2019年度も広報効果の大きい世帯10戸を選びカマド（セメントプラスチックタイプ）の設置を行います。今後のビジョンとして、同村を改良カマド普及による薪炭材削減および森林への負荷削減のモデル村としていきます。そのことにより改良カマドの広報効果及び評価を高め、キリマンジャロ山麓での普及スピードを大幅に高めることを狙います。また2019年度から、設置にあたってコストシェアリングを導入します。

●結果：

ロレ村に12基の改良カマドを設置しました。またこれらはすべてコストシェアリングにより設置し、当会がレンガ、セメントおよび村までの資材運搬費を支援、設置世帯が砂、カマド職人の費用を自前で負担する形式を取りました。実施にあたって問題はなく、この条件での設置要望を多く受けています。一方、学校から給食用大型カマドの設置依頼も受けていますが、これは TEACA と協議のうえ、改良カマドの設置はせず、遊休となっている代替炭用特殊カマドを活用していく方向で進めることとしました。

4. 裁縫教室

●課題：

国家試験で良い成績をおさめられなかった生徒が 2019 年度の試験に再チャレンジできるよう、再就学のための学費支援を行います。また現在の裁縫教室は通学を前提としたデスクール（脱学校）の運営形態をとっていますが、これをキリマンジャロ州以外からも広く生徒を受け入れられるよう、寄宿舎を併設したボーディングスクールに改めていくことにしています。このため 2020 年度には寄宿舎の建設支援を行う予定であり、2019 年度はそのための具体的建設プランの立案を行います。

●結果：

2019 年度に再入学を勧めていた生徒（3 名）は、結局ご両親の同意が得られず、再入学を断念しました。これに代わり、寄宿制への移行に向けて試験的に遠方から受け入れていた 1 年生の生徒 4 名の学費支援を行いました。

寄宿舎については、建築コストの高騰から当初計画していた個室ベースでの寄宿舎建設が困難となったことから、大部屋のドミトリーベースに大幅に構造を改めることになりました（建設開始は予定通り 2020 年度）。

ただし 2020 年に入り、コロナウィルスの影響から政府が 3 月から全土の学校の閉鎖を決定し、TEACA の裁縫教室もこれにより閉鎖を余儀なくされています（生徒は全員自宅待機）。現在再開の目処はまったく立っておらず、コロナウィルス禍の終息を待つしかない状況となっています。



2020 年の新入生たち。しかしこの後、タンザニア全土の学校が閉鎖に

5. 図書・文具支援

●課題：

ロレ村の幼稚園に対し、引き続き全園児への文具（ノート、ボールペン、鉛筆）の支給を行います。また同村で教会が中心となって取り組まれている孤児支援について、強い協力要請が出された場合、その支援を行うこととします。

●結果：

ロレ幼稚園の園児 60 名に、アルファベット練習用の罫線ノートとボールペンを支給しました。ノートはアルファベット練習のほか、算数、お絵描き用としても使われています。



ノートを手にするロレ幼稚園の園児たち

6. 診療所支援

●課題：

テマ村に建設した診療所で最後に残っている浸透層の設置と架線工事（電線引き込み）のうち、浸透層の設置を完了させます。その後診療所の政府登録および県による医師派遣の確実な実行をフォローします。政府登録、医師派遣が完了した場合、TEACA と協議のうえ診療所に必要となる機材もしくは薬剤への支援を実施します。ただし、これらを実現した場合も電線引き込みが完了できないまま残っており、診療所の運営に問題がないか、政府からクレームがつくことがないかについて、テマ村および TEACA と協議し見極めを行うこととします。

●結果：

浸透槽の設置、架線工事に加え、焼却炉の建設が必要となり、これらの建設を支援、すべて完了させることができました。また診療所の政府登録登録も完了し、2020年1月にテマ診療所として開業にこぎ着けることができました。新診療所は村の悲願であっただけに、開所式には数百名の村人が訪れ、村を挙げてお祝いがされました。

ただし、政府から派遣されたのが医師ではなく看護師であったこと、当面の運営に支障はないものの、政府から当初計画になかった検査室、予防接種冷蔵室、（診察室とは別の）治療室を早急に建設するよう新たな指示が出されるなど、今後に向けた課題はまだ多い状況。機材についてはベッド用マットレス、診療所の各部屋へのカーテンの設置を行いました。



ついに開業にこぎ着けたテマ診療所

7. 伝統水路復旧支援

●課題：

多くの伝統水路が放棄されていく中で、現在も高い稼働率を誇るテマ村のムレマ水路の補修を支援します。これまで伝統水路の復旧支援は TEACA を通して実施していましたが、ムレマ水路は水路委員会を通して実行します。直接支援は初めてのことであり、大規模な支援は行わず、毎年小規模な補修を重ねていく方法で進めていくことにします。

●結果：

工事に取りかかろうとしたところ、水道省パンガニ水盆局より、同局による高額な調査費と水源使用料を請求されることとなり、着工することができませんでした。現在局側と調査費請求の不当性について交渉中で、2019年度は水路の登録料支払いのみの結果となりました。

【国内事業】

1. ニュースレター

●課題：

ページ削減版で年4回の発行を引き続き目指します。また年1回、タンザニアの現場から直近の取り組み状況をお知らせするハガキ通信を継続します。

●結果：

ニュースレターはページ数は維持したものの、2回発行にとどまり大きな反省点となっています。現場からは2回ハガキでの活動報告を発信しました。

2. イベント出展

●課題：

- ・毎年10月に開催される「グローバルフェスタ」に出展し、キリマンジャロ山での国立公園拡大に伴う問題およびそれに対する当会、地域住民の取り組みの最新状況について展示、説明を行います。
- ・事務所の移転に伴い、従来出展してきた「さくら祭り」のような地域の方に親しまれているイベントへの出展機会がなくなったことから、同様の地域イベント（つつじヶ丘／調布）を探し出展を目指します。

●結果：

- ・グローバルフェスタは現地調査と重なってしまいましたが、手工芸チームが出展してくれ、活動広報、ボランティア募集を行ってくれました。
- ・つつじヶ丘近辺では調布駅前で開催されるアースデイがありましたが、福祉関係団体が主力のお祭りであったため、参加は見合わせました。（19年度の同イベントは、結局雨のため中止となりました）。

3. ぼれぼれカフェ

●課題：

当会の活動に気軽に触れ、参加の機会としていただくため開催している茶話会形式の「ぼれぼれカフェ」を2019年度も継続開催します（3～4回）。アフリカやタンザニア、当会の活動に関わりのあることをテーマにするほか、2019年度は「～キリマンジャロの村人と話そう！～ぼれぼれスワヒリ・カフェ」の開催を計画します。

●結果：

「ぼれぼれカフェ」は総会の第2部として“現地報告”を、手工芸チームミーティングに続ける形で“ミツバチのお話”、“ちょこっと触れるスワヒリ語”を開催し、計3回の実施となりました。スワヒリ語の回では実際に現地に電話をつなぎ、参加者お一人お一人、村人に挨拶をしてみました。村の人が日本の様子にダイレクトに触れる機会は少ないため、こうした機会は村人にとっても嬉しく、貴重なものだったと思われます。新年会もかねて鎌倉のお寺を使って第4回目の開催も企画していましたが、お寺さんの都合がつかず見送りとなりました。



4. ホームページのリニューアル

●課題：

現行のホームページを、「シンプル」、「分かりやすい」をコンセプトにした新ホームページに全面改定を行います。

●結果：

現行ホームページからのデータ移行を6割程度進めるにとどまりました。また、まだ未作成のページが残っており、海底にはまだ時間がかかる状況です。

5. パンフレット改訂

●課題：

現在のパンフレットの在庫がなくなることから、内容を改訂した新パンフレットを作成(1万部)します。

●結果：

19年度は着手できませんでした。

6. その他

●課題：

現地調査のタイミングに合わせ、1泊2日～2泊3日の内容で、キリマンジャロ山の農村見学やプロジェクト見学ができる受け入れプログラム（現地集合、現地解散）について検討します。タンザニア訪問を予定されている旅行者がオプションとして選択できるようなスタイルを基本コンセプトとし、なかなか触れることのできないアフリカの人々の素顔や生活に触れ、彼らと協力している当会の活動を現場で直接見ていただける機会を作っていくものです。

●結果：

1泊2日の短い日程でしたが、3月にキリマンジャロ山麓ロレ村に初めて現地プロジェクト視察／ホームステイを受け入れました（1名）。当初最大5名程度となる予定でしたが、先方の都合や新型コロナウイルスの影響でキャンセルとなったものです。

いらしたのは現地に派遣されている青年海外協力隊の方で、急ぎ足となりましたがロレ村でのプロジェクトを一通りご覧いただくことができました。

この受け入れプログラムは、受け入れ側の村や村の教会、環境グループに受け入れを通して寄付がされるようにしており、参加費は他と比べて安くはありませんが、このスタイルを堅持して次ぐ懈怠と考えています。



プロジェクト視察／ホームステイでロレ村の環境グループのみなさんから説明を受けています！



タンザニア・ポレポレクラブ

(事務所) 〒182-0005 東京都調布東つつじヶ丘 2-39-11 アザレアヒルズ 203
(Tel/Fax) 03-3300-7234、(郵便振込口座) 00150-7-77254
(E-mail) pole2club@gmail.com、(HP) <http://polepoleclub.jp/>
(本 部) 〒107-0062 東京都港区南青山 6-1-32-103
